

今治タオルはほかのタオルとどこが違うのか？

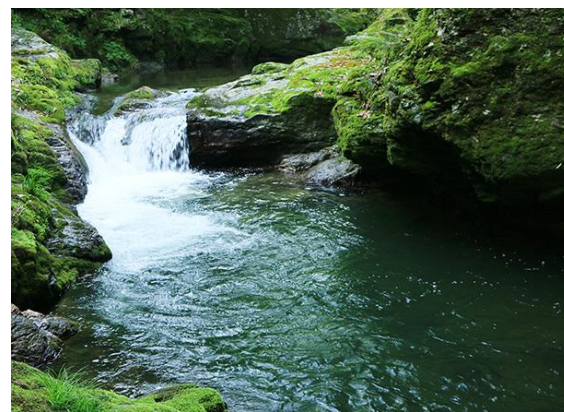
贈答品としてとても人気がある「今治タオル」は、結婚式の引き出物や、記念品、ホテルのアメニティとしてもよく選ばれており、一度はその柔らかさを実感したことのある人が多いと思います。

「今治タオル」といえば国産高級タオルの代名詞のようにもなっていますが、あの柔らかさを引き出すための、2つの特徴をご存じの方は少ないのではないのでしょうか？

まず、1つ目の大きな特徴として、「天然の良質な水源に恵まれている」という点があります。

タオルづくりにはたくさんの水が欠かせません。特に柔らかいタオルを作るためには、「硬度が低く、不純物が少ない」良質な水が必要になります。

愛媛県今治市を流れる蒼社川は、まさにこの良質な水の条件を満たしており、天然の豊富な水資源があることで、綿本来の柔らかさを十分に生かした製品づくりを可能にしています。



2つ目の大きな特徴は、「先晒加工」という製造方法を行っている点です。

綿花から製品になるまでの工程に、天然の綿花から不純物などを取り除き、本来の白度を引き出す「晒」という工程があります。

この加工の制度次第では綿本来の吸水性や白度を引き出すことが出来ず、染色後の発色や、使い心地に影響を及ぼしてしまうため、商品の品質を決定づける非常に重要な工程になります。

晒加工には、糸の状態で行う「先晒加工」と、タオルに織り上げてから晒を行う「後晒加工」があります。

染色ロットの都合をつけやすく、加工工程の効率化が出来るため、一般的に広く流通しているタオルはほとんど「後晒加工」ですが、今治ではあえて「先晒加工」を行っています。

後晒加工でも職人の努力と技術の進歩で良質な商品ができますが、同じ産地でも先晒と後晒の製品を比べると、先晒の方がより綿本来の柔らかさが発揮された糸になり、風合いのいい商品になります。

先晒加工では糊抜きといった水をくぐらせる回数が多い（その分加工工程が増えて手間がかかる）ことや、晒効果が高いため、この差が生まれるようです。



日本に住んでいればきっと1度は耳にしたことがある「今治ブランド」。この品質を支えているのは、豊富で良質な水と、クオリティにこだわって手間を惜しまない職人さんのプライドなんですね。